



令和6年1月18日
独立行政法人日本学術振興会

第14回（令和5(2023)年度）日本学術振興会 ^{いくし}育志賞の受賞者決定 （18名の優秀な大学院博士後期課程学生に授賞）

独立行政法人日本学術振興会（理事長 杉野 剛）は、本会に設置されている育志賞選考委員会（委員長 清水 孝雄：微生物化学研究所長、国立国際医療研究センタープロジェクト長）の選考に基づき、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程学生18名を日本学術振興会育志賞受賞者として決定しましたので、お知らせいたします。

<育志賞ウェブサイト： <https://www.jsps.go.jp/j-ikushi-prize/index.html>>

1 日本学術振興会 育志賞について

日本学術振興会は、上皇陛下の天皇御即位20年に当たり、社会的に厳しい経済環境の中で、勉学や研究に励んでいる若手研究者を支援・奨励するための事業の資として、平成21年に上皇陛下から御下賜金を賜りました。

このような陛下のお気持ちを受けて、本会では、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程学生を顕彰することで、その勉学及び研究意欲を高め、若手研究者の養成を図ることを目的として、平成22年度に「日本学術振興会育志賞」を創設し、今回が第14回目となります。

本年は、大学の長及び学術団体（学会）の長から170名の大学院博士課程学生の推薦があり、大学長経験者等の有識者にて構成される選考委員会で厳正な審査が行われ、受賞者18名を決定しました。

2 授賞式等について

令和6年2月頃に明治記念館（東京都港区元赤坂2丁目2-23）において、授賞式が行われる予定です。

（お問い合わせ）

独立行政法人日本学術振興会 人材育成事業部 人材育成企画課長 高橋 耕輔

電話：03-3263-1897（直通）

第14回（令和5（2023）年度）日本学術振興会 育志賞 受賞者一覧

※五十音順、年齢は令和5（2023）年4月1日現在、所属機関は令和5（2023）年5月1日現在

受賞者氏名 (性別)(年齢)	所属機関	推薦機関	博士課程の研究テーマ
イタオ ケンジ 板尾 健司 (男)(26)	東京大学 (総合文化研究科) (広域科学専攻)	日本物理学会 日本人類学会	人間社会の多様な構造の普遍的生成機構:進化、統計物理、民族誌データ解析の統合研究
イトウ エミ 伊東 瑛美 (女)(28)	大阪大学 (医学系研究科) (医学専攻)	日本免疫学会 大阪大学	T細胞分化における抗原としての自己代謝物認識の意義
オクイ ハルカ 奥井 晴香 (女)(26)	東京大学 (理学系研究科) (地球惑星科学専攻)	日本気象学会	高解像度大気大循環モデルを用いた中層大気の遠隔結合における重力波の役割の研究
キヤマ ハナ 木山 花 (女)(26)	大阪市立大学 (理学研究科) (生物地球系専攻)	大阪公立大学	ミニマル細菌における再構築から明らかにするらせん細菌の遊泳運動メカニズムと起源
キリノ ハル 桐野 巴瑠 (女)(27)	明治大学 (農学研究科) (農学専攻)	明治大学	線虫、宿主マツ、媒介カミキリムシの3者関係から紐解くマツ枯れのメカニズム
コバヤシ ヒロズミ 小林 大純 (男)(30)	琉球大学 (理工学研究科) (海洋環境学専攻)	日本魚類学会	両側回遊性魚類における洞窟性種の進化機構の解明
コンノ ナオキ 今野 直輝 (男)(25)	東京大学 (理学系研究科) (生物科学専攻)	日本進化学会 東京大学	過去の進化の解明と未来の進化の予測のためのバイオインフォマティクス
シバ シンタロウ 芝 慎太郎 (男)(30)	慶應義塾大学 (理工学研究科) (総合デザイン工学専攻)	情報処理学会 慶應義塾大学	イベントカメラによる動き推定とその応用
シミズ ユウホ 清水 佑輔 (男)(25)	東京大学 (人文社会系研究科) (社会文化研究専攻)	日本社会心理学会	高齢者に対する否定的態度の軽減:「誰もがいつか高齢者になる」ことに着目して
センジョウ ハジメ 千丈 創 (男)(33)	北海道大学 (医学研究院内科系部門) (内科学分野 血液内科学)	日本血液学会	カルシニューリン阻害薬はドナーT細胞疲弊抑制を介して免疫寛容導入を阻害する

受賞者氏名 (性別)(年齢)	所属機関	推薦機関	博士課程の研究テーマ
タカダ シンゴ 高田 真悟 (男)(27)	東京大学 (工学系研究科) (電気系工学専攻)	応用物理学会 東京大学	スピントロニクスデバイスに向けた酸化物界面における高効率スピンドラフト-電流変換の研究
ツジ ユリカ 辻 百合香 (女)(28)	お茶の水女子大学 (人間文化創成科学研究科) (人間発達科学専攻)	お茶の水女子大学	自閉スペクトラム症特性と言語聴取困難の関連の解明
ノガミ ジュンタロウ 野上 純太郎 (男)(27)	東京工業大学 (物質理工学院) (応用化学系)	東京工業大学	多彩なキラリティをもつ未踏環状芳香族分子の創製
ハシダ ヒロアキ 橋田 紘明 (男)(26)	東北大学 (情報科学研究科) (応用情報科学専攻)	東北大学	動的電波伝搬制御を実現する知能電波反射面を用いた次世代型無線通信システムの研究
ヒツワリ ジンペイ 櫃割 仁平 (男)(27)	京都大学 (教育学研究科) (教育学環)	日本心理学会 京都大学	俳句の曖昧性が審美性に与える影響の心理・神経・生理メカニズムの解明
ヤギ トオスケ 八木 達祐 (男)(31)	立命館大学 (先端総合学術研究科) (共生領域専攻)	日本アフリカ学会	アフリカのスラムツーリズムの展開に関する文化人類学的研究
ヤマギシ ジュンペイ 山岸 純平 (男)(27)	東京大学 (総合文化研究科) (広域科学専攻)	日本生物物理学会	細胞および生態系の代謝応答と安定性の一般理論:物理学と経済学からのアプローチ
ヨシジ サトシ 吉治 智志 (男)(33)	京都大学 (医学研究科) (マギル大学ゲノム医学国際連携専攻)	京都大学	ゲノム・プロテオーム解析を通じた肥満によるCOVID-19重症化の媒介因子の解明

「日本学術振興会 育志賞」の概要

— 優秀な大学院博士後期課程学生の顕彰・支援 —

1. 事業の趣旨

日本学術振興会は、上皇陛下の天皇御即位20年に当たり、社会的に厳しい経済環境の中で、勉学や研究に励んでいる若手研究者を支援・奨励するための事業の資として、平成21年に上皇陛下から御下賜金を賜りました。

このような陛下のお気持ちを受けて、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士後期課程学生を顕彰することで、その勉学及び研究意欲を高め、若手研究者の養成を図ることを目的として、平成22年度に「日本学術振興会 育志賞」を創設しました。

2. 対象分野

人文学、社会科学及び自然科学にわたる全分野

3. 対象者

以下の①②の条件を満たす者を対象とする。

- ① 我が国の大学院博士課程学生（海外からの留学生を含む）であって、令和5（2023）年4月1日において34歳未満の者で、令和5（2023）年5月1日において次の1）から4）のいずれかに該当する者（5月1日に休学中の者の扱いについては、※参照）

- 1) 区分制の博士後期課程に在学する者
- 2) 一貫制の博士課程3年次以上の年次に在学する者
- 3) 後期3年だけの博士課程に在学する者
- 4) 医学、歯学、薬学又は獣医学系の4年制博士課程に在学する者

※ 5月1日に休学中の者については、11月1日までに復学を予定している場合には、推薦できます。この場合は、令和5（2023）年11月1日において、1）から4）のいずれかに該当する必要があります。

- ② 大学院における学業成績が優秀であり、豊かな人間性を備え、意欲的かつ主体的に勉学及び研究活動に取り組んでいる者

4. 推薦権者

- 1) 我が国の大学の長（大学長推薦）

推薦数：人社系、理工系、生物系各2名、その他に分野を問わず2名の計8名まで
※ただし各カテゴリーの推薦が男性のみの場合は各1名まで

- 2) 我が国の学術団体（日本学術会議協力学術研究団体に限る）の長（学会長推薦）

推薦数：2名まで
※ただし推薦が男性のみの場合は1名まで

5. 選考方法

推薦のあった候補者について、書類選考により面接選考対象者を決定し、面接選考を経て、日本学術振興会に設置する選考委員会において、受賞者を決定します。

6. 選考基準

学業成績が優秀で、豊かな人間性を備え、意欲的かつ主体的に勉学及び研究活動に取り組んでいること。選考に当たっては、本賞の趣旨に鑑み、次の①から③を重視します。

- ① 我が国の学術研究の将来を担う研究者となりうる卓越した能力を有しており、将来学界等への貢献が期待されること
- ② 将来、更なる研究の発展が見込まれ、卓越した研究者に成長していく可能性を有していること
- ③ 経済的に困難な状況や、研究施設が必ずしも十分ではない等の厳しい研究環境の下でも創意工夫を凝らして、主体的に研究を進めていること

※上記に該当する者の例

- 発想・着想、課題設定などにおいて、創造性・独創性が高い研究に主体的に取り組んでいる者
- 当該学問領域や学際領域における重要な基盤となる研究に主体的に取り組んでいる者
- 研究活動に関連する、ユニークな活動に主体的に取り組んでいる者
- 短期的には論文等の成果が出にくい研究に対して、忍耐強く取り組んでいる者

7. 授賞等

授賞数は16名程度とし、受賞者には、賞状、賞牌及び副賞として学業奨励金110万円を贈呈します。

8. 受賞後の取扱い

受賞者は、希望により、所定の申請手続きを経た場合、受賞の翌年度から「日本学術振興会特別研究員（PD）」等に採用され、研究奨励金等（PDの場合：月額36万2千円を予定）が支給されます。

9. 第14回（令和5（2023）年度）日本学術振興会 育志賞 推薦状況

大学長推薦	学会長推薦	計
120名（118名）	61名（58名）	170名（166名）

（ ）内は、前年度の人数

※合計数は、重複推薦を1名として計上

10. 第14回（令和5（2023）年度）日本学術振興会 育志賞 日程

推薦依頼	令和5(2023)年3月15日
推薦書受付	令和5(2023)年5月25日～30日
予備選考（書面選考）	令和5(2023)年6月～10月
予備選考（面接選考）	令和5(2023)年11月
選考委員会	令和6(2024)年1月5日
授賞式	令和6(2024)年2月頃

11. 賞牌

このメダルの外形は、西洋では「学術」「発明」「知恵」など、日本では「天眼力」「神通力」にたけた鳥と言われているフクロウの卵を表しています。また中央に日本学術振興会のマークである長鳴き鳥を配し、連続模様で「広がり」を表現し、さらなる成長を期待するという趣旨でデザインしました。

（デザイン：東京芸術大学名誉教授 飯野 一朗）



12. 日本学術振興会 育志賞 選考委員会委員名簿

令和6年1月現在（敬称略）

氏名	所属機関・職
委員長 清水 孝雄	微生物化学研究所長、 国立国際医療研究センタープロジェクト長
大隅 典子	東北大学副学長、大学院医学系研究科教授
河田 悌一	関西大学東京センター長、 日本私立学校振興・共済事業団前理事長
田中 明彦	国際協力機構理事長
西澤 直子	石川県立大学学長
花輪 公雄	山形大学理事・副学長
日比谷 潤子	学校法人聖心女子学院常務理事
藤巻 朗	名古屋大学副総長、大学院工学研究科教授
八島 栄次	名古屋大学大学院工学研究科教授